



善き力

ボンヘッファーを描き出す12章

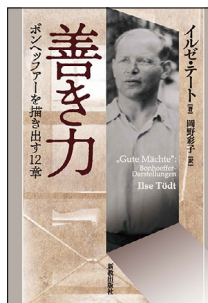
11月8日発売

イルゼ・テート「著」、岡野彩子「訳」

彼は何者だったのか――

著者は、夫H・E・テートと共に新版ボンヘッファー全集（DBW）の編集に絶大な貢献を果たし、ボンヘッファーのテキストに誰よりも通暁する碩学である。本書は、著者が2000年代初頭に、主として一般市民を対象に語った講演を収録する。様々なテーマを切り口に、ボンヘッファーの神学思想と信仰世界の豊かさが生き生きと描き出される。とりわけ、ヒトラー暗殺計画に加担した彼のキリスト服従、罪責、責任をめぐる諸考察は圧巻。

◆四六判・326頁・定価3960円



著者 Ilse Tödt 1930 年生まれ。ゲッティンゲン大学から博士号取得。夫ハインツ・エドゥアルト・テートと共に DBW の編集委員として中心的な役割を担い、夫の没後、そのあとを継いで総編集者に就いた。

【目次から】

- 第1章 「善き力に不思議に守られて……」
——ディートリヒ・ボンヘッファー 神学者・抵抗運動の闘士
- 第2章 ディートリヒ・ボンヘッファーの生涯と神学における一つの要点
- 第3章 ボンヘッファーの冒険
——平和という神の戒めを知るために
- 第4章 ボンヘッファーの生涯における聖書
- 第5章 ボンヘッファーの『服従』におけるイエスの山上の説教
- 第7章 世界におけるキリスト者の責任
——私たちはボンヘッファーから何を新たに学べるのか
- 第8章 ボンヘッファーと極端なもの
- 第9章 逆説的な従順——ディートリヒ・ボンヘッファーの神学倫理一九三三〜一九四三
- 第10章 必要な高貴さ——ディートリヒ・ボンヘッファーが思い描くドイツの未来
- 第11章 「聖なること」は難しい？
- 第12章 死と復活

● 9 月 刊 行

現代エキュメニカル運動史

ジェンダー正義の視点から読み解く

藤原佐和子著

◆ A5 判・定価 3740 円

「エキュメニカルの冬」をもたらしたとされる女性の按手の是非やセクシュアリティに関わる問題群はいかなる論争と実践をもたらしたか。多くの取り組みと議論を一次資料を通して丹念に辿った新たな歴史像。



● 8 月 刊 行

ロゴセラピー

人間への限りない畏敬に基づく心理療法

エリーザベト・ルーカス著／草野智洋・徳永繁子訳 ◆ A5 判・定価 3300 円

基礎概念を説明したのち、「生きる意味」の発見を支援する実践技法を懇切に解説。医療と心理のみならず、教師や宗教者など人と深く関わる全ての者にとって豊かな示唆に富む。著者は فرانクル の高弟。



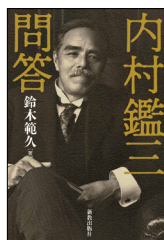
● 7 月 刊 行

内村鑑三問答

鈴木範久著

◆ 四六判・定価 2970 円

70 年にわたり内村と向き合い続け、記念碑的な『内村鑑三日録』全 12 巻を世に問うなど、終始内村研究を主導してきた著者が、「なぜ最初の結婚は破綻したのか」「新島襄から離れたわけは」「天皇をどうみたか」など、更なる解明を要する 24 の「謎」を取り上げ、その人格と思想に迫る。



● 5 月 刊 行

クィア神学入門

その複数の声を聴く

クリス・グリノフ著／薄井良子訳

◆ 四六判・定価 2970 円

本書は、クィアとキリスト教に関する基本的な概念を平易に解説すると同時に、これら複数の神学的な冒険の歴史と最前線の議論を紹介する。多くの人の疑問に答え、新たな理解と更なる学びへと促す。



ディートリヒ・ボンヘッファー 著／宮田光雄 監訳

倫理 DBW版・新訳

ボンヘッファーがライフワークとして取り組み、ナチによる逮捕と刑死によってついに未完に終わった倫理学。長らく森野善右衛門訳『現代キリスト教倫理』として読み継がれてきたが、ここに新版ボンヘッファー全集第6巻（DBW6）に基づく全く新たな訳が完成。ナチの監視下に慌ただしく書き継がれた草稿を綿密な判読と徹底的な校閲により再構成し、膨大な脚注を付した本書は、著者の構想を余すところなく明かにし、キリスト教倫理の可能性を鮮やかに指し示す。

四六判・予価9900円

パム・ロイ&モイラ・フンメル 編著／赤坂桃子 訳

ロゴセラピーのレッスズ 21の知恵「仮題」

ヴィクトール・フランクルの文章から21の短い章句を引用し、それに関連する目的、幸福、自由、自己超越、責任、ユーモアといった21のテーマを考察する。ロゴセラピーの考え方を通して自己発見のための手がかりをつかむガイドブック。

B6判・予価1500円

吉田隆、長谷部弘、弓矢健児、豊川慎著

平和の福音に生きる教会の宣言

日本キリスト改革派教会「平和宣言」と解説

2023年の改革派教会の大会で採択された宣言は、今日と将来の教会がこの世に対して果たすべき責任を「平和をつくる」という視点から積極的に展開する。本書は、この宣言が日本の教界で広く共有され、学びの素材とされるために、本文と共に懇切な解説を施した。小B6判・定価990円

10月に出た本と雑誌

聖書学と信仰者

信仰者は批判的聖書学とどう向き合うべきか



ブレットラー、ハリントン、
エンス共著／魯恩碩訳

ユダヤ教、カトリック、プロテスタント3人の聖書学者による白熱討論！ 聖書を神の靈感を受けて書かれた聖なる文書か？ それとも人間の手によって書かれた歴史のおよび文学的テキストか？ この二者択一を超えて、旧約聖書を批判的かつ信仰的な観点から読むことをどのように遂行できるのか、または遂行すべきなのかを、古代以来の聖書解釈の歴史から最新の釈義理論までを参照しつつ考察する。

◆A5判・定価2970円

福音と世界

◆定価660円

11月号 特集Ⅱ現代日本において

宗教哲学を構想する

寄稿者・杉村靖彦、岡田有賢、鬼頭葉子

濱崎雅孝、谷塚 巖、脇坂真弥

書評 マニエル・ヤン『バビロンの路上で』……榎本空

リレー連載『荊冠の神学』を読む1……小柳伸顕

連載 インタビューシリーズ 女たちの闘い、田島卓、今高

義也、長尾優、真下弥生、山崎ランサム和彦

佐竹明先生が10月21日に亡くなられました。95歳でした。先生は小社の現代新約注解全書の立ち上げに尽くしてくださり、ご自身もピリビ書、ガラテヤ書、黙示録、第二コリント書と次々と重厚な注解を著し、日本の教界と学界に貢献されました。黙示録は大改訂を施した3巻本の新版を出され、その研究が評価されて2011年に学士院賞・恩賜賞を授与されました。小社の本が学士院賞の対象とされたのは初めてでしたので、とても嬉しかったことを覚えています。黙示録注解はドイツの伝統あるマイヤー注解双書にも収録されるなど、世界の新約学の第一線でも評価されました。数年前、前述の全書に推したいと思う若手研究者の注解を、先生に閲読していただいたことがあります。先生は全書収録に賛成されず、「この著者は、テキストとの対話を深める前に二次文献を読みすぎている、もっとテキストと対話すべきである、そこから本当の自分の問題が出てくるはずだ」という趣旨の評言を付けてくれました。「テキストとの対話」という言葉と共に、強く印象に残る出来事でした。

先生のお父上は佐竹徳という洋画家です。賀川豊彦の影響を受けたキリスト者ですが、その信仰が画業とどのように関係し

ていたかはわかりません。晩年の30年間、岡山県の牛窓に住み、ひたすら土地の風景を描いていたようです。あるとき先生から徳の立派な画集をいただきました。私はそのページを繰りながら名状しがたい感銘を覚えました。技術的なことは一切分かりませんが、瀬戸内海の花と空が、オリブの樹々が、実にみごとに美しく、しかし「美しく描いてやろう」などといった街いを毫も含まず、淡々と、まっすぐに描かれていたのです。その清々しさに打たれました。父における風景との対話。息子におけるテキストとの対話。両者には必ずや通底する何かがあるに違いないと確信したことでした。

昨年2月に、第二コリント注解の続巻の遅れについて先生からお手紙をいただきました。遅れの理由は「当初彼の執筆の特徴と受け止めていた当方の認識を持ちこたえることが出来ず、それに基づいて記していた当方の最終原稿と思い定めていたものを書き直すにおけなくなったこと」と書いておられました。何十年もパウロと対話してこられた佐竹先生にして、しかも90歳を越えた老大家にして、このような認識転換と書き直しを受け入れる誠実さと勇氣に、そして学問の厳しさに、しばし茫然としました。(小林)

福音と世界

2024年
12

特集・待ち望む——待ちつつ急ぎつつ

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8760円

主よ、いつまでなのですか——北 博

新約聖書における「待ち望む」ことの意味——

——暴力と戦争の時代のただ中で——山口希生

デイスベンセーションナリズムと

キリスト教シオニズム——大宮有博

ポップカルチャーにおける終末のイメージと

意義——エネルゲイアへの希求——高橋優子

消えゆくオールドカマーとして待ち望むこと——

許 伯基

沖繩で神を待ち望む——金井 創

【追悼】荒井献先生——日本昭男

【リレー連載】『冠冠の神学』を読み直す2 青木理恵子

【好評連載】

◆女たちの闘い 声をつむぐ、織りなすア

北九州「聖書と女性」読書会

◆証言としての旧約聖書 8

田島 卓

◆八木重吉の聖書 17

今高義也

◆私は告白する、私の神を 21

長尾 優

◆「日本的キリスト教」を読む 32

山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書 36

山崎ランサム和彦